

長い長いフライトを終え、ようやく着いた空港。重いキャリーバックを引き、ふっと顔を上げると奥の方にホストファミリーが見えた。何を言えば良いのだろう、と緊張した。それと同時に、やっと会えたのだ、と嬉しさが込み上げてきた。ここから、私の充実した 7 日間が始まる。

まだ海外に行ったことがなかった私は、生活に馴染めるのか、うまくコミュニケーションが取れるのか不安であった。しかし、事前学



習会で ALT の先生と話したり、プレゼン資料を作成したりするなかで、気持ちの変化があった。「自分が出発することをやっぴこう。」そう決意して、留学に臨んだ。実際にアイオワに行くと、そこは私にとって全てが新しいものだった。のどかな所だとは聞いていたが百聞は一見にしかず。やはり、アメリカは広大な土地を持っているのだと実感した。また、プログラム中で特に嬉しかったのは、福祉施設でのこと。私は老夫婦と食事をした。日本のことに関心を持ってくださり、写真を見せながら会話をしていたら私だけ食べ遅れ、老夫婦に突っ込まれた。最後は、部屋までついていき、そこでもゆったりとお話をした。自分の話す英語がきちんと伝わった時の喜びは今でも忘れられない。

どんな感じだろうと期待していたホームステイは、あっという間に過ぎた。ホストシスターがちょうど誕生日だったので、私が持っていたミニ黒板にメッセージと絵を添え、プレゼントした。プレゼントを見せた時、喜んでくれたのが何よりも嬉しかった。私のつたない英語を聞きながら、聞いてくれたホストファミリーには、とても感謝している。帰り際に、「パスポートを隠してあげるから、ここに住めば？」と冗談を言われ、思わず笑ってしまった。

初めての留学で得たものは、数え切れないほど多い。それまでの私は、新聞などをあまり読まず、自分の世界についてしか考えてこなかった。それが、外国に一步踏み出してみると、自分が今どれほど狭い世界にいるのかを実感した。「もっとたくさんの方に挑戦したい。」そう強く思わせてくれたのがこのプログラムである。そのために、英語をさらに学習し、ニュースにも目を向け、自分のスキルアップに努めていくと心に決めた。留学を経験し、私は「自立」に少し近づけたと思っている。今回のプログラムでは、自分から人に声をかけ、コミュニケーション力も上げることが出来た。またアイオワを訪ね、交流の輪を広げていきたい。

目に映るもの全てが新しく、海を越えた先には、日本とこんなに違う世界が広がっていたのかと驚いた。それは、私にとって初めての海外経験であったという事もあるだろう。そのため、出入国の時など、緊張する場面もあったが、事前学習会の内容がとても役立ったと思われる。私は、この留学プログラムを通して大きく成長することが出来た。



特に成長させることが出来たのは、コミュニケーション能力であると感じている。ホストファミリーや現地に出会った方とコミュニケーションをとる中で、日本人に比べて、会話一つ一つのリアクションが大きいと感じる事が多かった。だから、私も大きく反応するようにした。また、会話をしていても、私の発音が悪かったり、上手に伝えられない事が多かった。「自分の英語力ってこんなに低いんだ。」と、とても悔しかったが、知っている単語を言ってみたり、めげずに多くの質問をして、積極的にコミュニケーションをとる事が出来た。

次に、私に関心を持っている社会課題である人口減少について、考え方が少し変わったところがある。私たちがプログラムを通して参加したフードバンクで聞いた話によると、アイオワ州では、9人に1人が食料を得る事が出来ない状況にあるようだ。この話を聞き、人口を増やしていくためには、貧困問題など、人口減少につながる問題を一つ一つ解決していかなければいけないと感じた。

プレゼンテーションは、現地の方の前で行い、発表はもちろん全て英語であったため難しく感じる事はあったが、この日までに約4日間アイオワ州で過ごし、アイオワ州の魅力を知ることが出来た私は、山梨県の魅力もアイオワ州の方に知ってもらいたいという気持ちが強くあった。だが、上手い出来ないところもあり、反省点も多くあった。

私は、この留学プログラムを通し、自分の人生を豊かにする経験が数多く出来たと感じている。ホームステイ先のホストファミリーと交わした会話や訪れた場所、その全てが、私の知識をさらに広げるものとなった。とても親切な方で、私は、この出会いそしてホストファミリーと過ごした時間を一生忘れる事は無いだろう。

最後に、この留学プログラムで得たものを次へと生かし、グローバル人材に近づいていけるよう努力し続けていきたい。

今夏、一番輝いた一週間

甲府第一高校 1年 生原志歩

私にとってホームステイという形での留学は初めてだったため、現地へ行く前は不安もあった。しかし、笑顔で私たちを歓迎してくれたホストマザーや、心温かいアイオワ州の方々に囲まれ、とても充実した時間を過ごすことができた。



私は現地滞在中、自分から積極的に英語を使うことを心がけた。しかし最初のころは、相手と会話を始めても、ネイティブの人が話す流暢な英語になかなかついて行けず、何度も聞き直すなど悔しい思いばかりした。心が折れそうになることもあったが、日が経つにつれて徐々に英語に慣れていき、会話のキャッチボールがスムーズにできるようになった。以前留学を経験した時に、英語力が乏しく、全く歯が立たずに悔しい思いをした私にとって、自分の英語が相手に伝わるという大きな喜びをはじめて感じる事ができた瞬間だった。日本にいと、授業で英語は勉強しても、生活の中で実際にそれを使うことはなかなかない。だからこそ、こうしてアメリカへ行き、ネイティブの人たちとの会話を楽しめたことは非日常であり、自分自身の英語力の向上につながったと感じた。

また、World Food Prize や高齢者福祉施設などの施設を訪問したことで、実際に現地を訪れなければわからないような「気づき」をたくさん得ることができた。事前学習会で基礎的な知識を身に着けたうえで参加したからこそ、より多くの部分に目を付け、学びを深めることができたのだと思う。

このプログラムに参加する前から、将来は日本を飛び出して海外で活躍したいという思いがあったが、それは私にとって憧れに近いようなものだった。しかし、今回のプログラムを通して、憧れではなくより明確な「目標」へと変わった。いつか世界を股にかけて活躍する「グローバル人材」になれるようこの経験を糧にこれからも努力していきたいと思う。

アメリカで過ごした 1 週間は、初めて見るものや新しい発見で溢れていた。この経験は私にとって間違いなく、この夏一番の思い出になった。「アイオワ州」という素敵な地で、素敵な出会いと経験ができたことを心から嬉しく思う。

最後に、事前学習から事後学習までを共に過ごした先生方、19 人の仲間、アメリカでの一週間をサポートしてくれた現地の方々、そしてこのプログラムへ参加させてくれた両親に、心から感謝している。

IOWA に行って感じたこと

甲府第一高校 1年 山本果歩

私が今回のプログラムを通して実感したことが4つある。1つ目は、英語をしゃべることは楽しいということだ。私はアメリカに行く前自分の英語が現地の人に伝わるかとても不安だった。また、出発前の事前学習会でも英語を用いて活動し、周りの仲間たちの英語力の高さに驚き、相当焦った。けれど私は出発前に ALT の先生からかけられた言葉に救われた。「Don't be shy!!」この魔法の言葉のように恥ずかしがらず、堂々と自分の気持ちを自分の言葉で伝えよ



うと思った。現地では、IOWA の人はとても優しく、私の変な英語にも笑顔で対応してくれた。けれど、本場の人が話す英語のスピードはとても速く、聞き取ることが精いっぱいどう返していいのかわからなかった。しかし家ではホストファミリーがたくさん話しかけてくれて、だんだんと重かった気持ちが軽くなっていった。自分からもわからないことを質問したり、積極的に話しかけることを意識することで、少し自分に自信を持つことができるようになった。また、わからないことがあった時、仲間同士で助けあいお互いの力を高めあえたと思う。このプログラムでは現地の人と話す機会が多くとてもよかった。もっと英語を頑張って勉強し、自分の言葉で伝えられるようになってまた IOWA を訪れたいと思う。

2つ目は、自分の知っている世界はとても狭いということだ。アメリカにはさまざまな人種の人が暮らしていて、今まで知らなかった文化や物であふれていた。アメリカの土地は広大で山梨が、日本が、ちっぽけに感じた。自分の今まで見てきたものは本当に小さなもので世界にはまだまだ自分の想像もできないようなものが広がっているのだなと感じた。もっと様々な国へ行くことで多くの知識や経験を増やしたいと思った。

3つ目は、日本は素晴らしいということだ。アメリカのものは何でもサイズが大きく、食べ物は味が濃く最初のうちは慣れるに大変で何度か日本食が恋しくなった。またスーパーなどのお店に行って商品の陳列の仕方、店員さんの接客方法など、日本と比べた時、日本人の細やかさや繊細さ、気配りの仕方はすごいなと再認識した。しかし私はアメリカのフレンドリーな店員さんや明るく、にぎやかな街の雰囲気、おおらかな人々も大好きだ。

このプログラムを通して、今まで見たことのなかった世界を見ることで自分の住んでいる場所の良いところや課題を今までとは違う視点から発見することができた。

また貴重な経験を通して今までの私にはない積極性と主体性を身につけることができた。これからは新たな目標に向かって何事にも積極的にチャレンジしていきたいと思う。

留学を通して

甲府西高校 1年 大柴あや

○留学前と留学後の私、留学を通して感じたこと

留学を通して私は大きく変化しました。留学前の私は様々な場面で“失敗したらどうしよう、恥ずかしい”と何かに挑戦することを拒みがちだった。しかし、アメリカでの生活の中で何事も挑戦する山梨の仲間を見ていたら“私も挑戦してみよう”と思えるようになった。そして現地の方に道を尋ねたり、おすすめの商品を訊いてみたりなど、積極的に挑戦することができた。もちろん、挑戦する中で自分の英語が伝わらず失敗することもあったし、恥ずかしい思いをしたこともあった。しかし、1つ1つの失敗は必ず自分を高めていった。私はこの留学を通して、失敗を恐れなくなった。だからこそ、この経験をいかして何事にも挑戦していきたいと思う。また、仲間の大切さを知ることができた。



○社会課題に対する関心について

社会課題に対する関心は高まった。私はもともと貧困の方々の支援について興味があり、その中でフードバンクとワールドフードプライズへの見学はとても貴重な経験だった。食に苦しむ方々の存在を改めて知ることができ、働くことの大変さを実感することができた。また、他にどのような支援をしているのか知りたいと思った。

○コミュニケーションの力について

伝える力は特に高まったと思う。生活していく中で、自分の発音が伝わらないことが度々あった。その度に現地の方々の発音に近付けようと試みることで発音もよりよくなったと思う。また伝わらないこともあった。そんなときは“どうやったら伝わるか”を考えて積極的にコミュニケーションをとることができた。また、現地の方の発音をきくことで耳も鍛えられ聞く力も高めることができた。

○問題を解決する力について

アメリカでの生活では日本と違いが多くわからないことだらけで困った場面も多かった。しかし、誰かに聞いたり自分で調べたりして問題を解決することができた。また、人任せにするのではなく“自分が動く”ということを意識して行動することができた。

○事前学習について

事前学習では一緒に行く仲間と交流することで留学に対する意識を高めることができた。また、事前学習の中で、アイオワに関する知識を得ることができよかった。プレゼンテーションの制作では“どうしたら伝わりやすいか”を仲間と相談しあうことで協力することの大切さを知ることができた。

○留学中のプログラム、ホームステイについて

私が心に残ったのは、フードバンクとワールドフードプライズだ。食に困っている人の存在を知ること自分たちがどれほど恵まれているのかを実感でき、社会課題に対する関心も高まった。また、ホストファミリーとの生活はアメリカの文化を身近に感じることができとてもおもしろかったし、勉強になった。全体を通して、不安や緊張もあったが、1つ1つが大変貴重で忘れられない美しい思い出となった。

アイオワでの経験

甲府西高校 2年 小宮山優羽

異文化に触れたい、アメリカについてもっと知りたいと思い今回のプログラムへの参加を決意しました。実際にプログラムに参加し、様々な経験を通して視野を広げることができました。頭ではわかっていたつもりでいた文化の違いや言葉の壁にぶつかり戸惑うことも多くありました。しかし、困難に立ち向かうことで新しい発見や良い経験をすることができました。



アイオワで五日間ホームステイをさせてもらいました。最初は英語で話すことに慣れず、同じホーム

ステイの友達と日本語でばかり話してしまいました。しかし、ホストファミリーが優しく接してくださり、英語でコミュニケーションをとることができました。拙い英語でも一生懸命に聞こうとしてくださったので、だんだんと積極的に話すことができました。英語で会話ができるときにはとても達成感を感じ、とても嬉しかったです。積極的になり英語で話すことをこれからも挑戦したいと思います。

山梨とアイオワは自然豊かで農業が盛んという共通点があるほか、人口流出という同じ社会問題があります。しかし、実際アイオワに行くと、コーン畑や大豆の畑などがたくさんあり、農業が盛んに行われていることは実感しましたが、人口が少ないという印象はあまり受けませんでした。同じ社会問題でも国や文化によって解決策は違うのではないかと感じました。このプログラムを通してアイオワ州と比較をすることで、山梨を客観的に見ることができ、視野を広げられたように感じました。以前はあまり興味をもっていなかった山梨や世界の社会問題に関心を持つことができました。

今回のプログラムで、ホストファミリーと交流することで、アイオワでの生活を実際に体験し異文化を感じることができました。山梨県とアイオワ州が姉妹県となったきっかけは山梨が台風の被害で苦しんでいるときにアイオワ州が35頭の豚をお見舞いとして贈ってくれたということから始まったと知りました。山梨に豚を贈ったリチャード・トーマスさんはこのことがきっかけで姉妹県となるとは思いもよらなかったと話していたそうです。私たちがこのようにアイオワ州を訪れることができるように、1960年から今まで交流が続いていることはとても素晴らしいことだなと感じました。小さいと思える善意が人と人の輪を広げたように、人とのつながりを大切にしたいと思います。今回のプログラムで交流できたホストファミリーと一緒にプログラムに参加した友達との絆を大切にしていきたいです。そしてアイオワで学んだ経験をこれからの生活に生かし、グローバル人材となれるよう努力したいです。

アイオワでの学び

甲府西高校 2年 津金早苗

まず始めに、留学前と留学後の1番の変化は考え方の変化だと思う。日本や山梨と違う文化を体験したことで自分の今までの常識が違う社会では常識ではないということがわかった。この体験で、今までより柔軟な多角的な考え方が出来るようになったと思う。

社会課題に対する関心の変化はあったと思う。まず、このプログラムに参加するまで私は山梨の社会課題についてほとんど知らなかったということに気づかされた。しかし、事前学習会での取り組みや留学中の活動を通し、山梨県の課題がより身近なものに感じられた。この経験で身近な社会課題に目を向け考える力が身についたと思う。



また、この留学を通し、コミュニケーションの力に変化があったと感じる。1日目、2日目くらいまで正しい文法や発音をしようとしてなかなか会話が出来なかった。また、相手がなにを言ったのかわからなかったときも曖昧に返事をしてしまうことが多かった。しかし、ホストファミリーや現地の方々との会話で、間違える恥ずかしさよりも会話の楽しさを感じるようになった。沢山コミュニケーションがとれたことによって、この留学がより充実したものになったと思う。

私はこの留学を通して、自分の英語の力はネイティブの方々とは不十分だと感じた。学校の授業や英会話のレッスンで先生と話す時とは全く違い、知らない単語や聞き取れない単語が多くコミュニケーションをとるのがとても難しかった。そこで、私に必要なのは語彙力の向上と経験値だと思う。自分が知らない言葉は聞き取れないし使えないということを痛感した。また、知っている言葉が多くても使えないと意味がないとわかった。今後はこの2つに力を入れて英語の勉強をしていきたい。

事前学習会の取り組みでは、それまで知らなかった山梨県のことについて知ることが出来た。プレゼンを作成するための調査や意見を交わし合う中で、様々な方向から考える力がついたと感じる。また、始めは他校の生徒が多く不安ばかりだったが、ワークショップを通して仲間たちと楽しく学ぶことができ、自然と話せるようになった。この事前学習会も含めてこのプログラムに参加したことは本当に良い経験になった。

留学中のプログラムで1番心に残っているのは四日目の福祉施設の訪問と、プレゼンテーションだ。福祉施設では高齢者の方々と一緒に昼食をとった。私達に優しく、わかりやすく話しかけてくださり、とても楽しめた。私達も日本の文化や生活について話ができ、とても充実した活動だった。プレゼンテーションでは準備のために現地の学生との交流もできた。事前学習会でも準備してきたものだったので良いものにできて本当によかった。

アイオワ州でのプログラムは全てが初めて知るもので、アイオワ州についてたくさん知れた活動だった。

ホームステイでは、実際に生活してみないと分からない日本とアメリカの文化違いをたくさん体験できた。また、このように有意義な留学となったのもホストファミリーのみなさんが優しく迎え入れてくれたからだと思う。とても短い期間だったが、とても楽しく充実していた。彼らには本当に感謝している。

(1) 社会課題に対する関心の変化

私は、山梨県とアイオワ州の農業の違いについて調べ、アイオワ州に行きました。現地では、学生さんと一緒にプレゼンテーションを行う機会があり「アイオワ州と山梨県の農業について」たくさん話し合いました。この話し合いは、とても良い刺激になりました。また、アイオワ州から見た山梨県の課題を教えてもらったことにより、この課題を客観的に見ることができ、新しい解決策も発見することができました。物事の見方を少し変えるだけで、発想の転換や客観視ができ、よりたくさんの新しいことに気づくことができるのだと改めて知る良い機会になりました。



また、今回アイオワ州では、どの場面でも山梨県とアイオワ州との比較をするように心がけました。そこで気づいたのは、アイオワ州で行われていた、誰にでも使いやすい街づくりの工夫です。例えば、スーパーや空港に、体の不自由な人の移動のための車や、色覚の弱い人にも使いやすい信号機など、たくさんの工夫が見られました。このような取り組みを山梨県でも参考にして取り入れるべきだと思いました。

このことを通じて、山梨県の社会課題について、さらに興味がわきました。

(2) コミュニケーション能力について

この留学に参加して、私はコミュニケーション能力が向上したと考えます。たくさんホストファミリーに、自分の知っている文法と、単語を駆使して話しかけ、意思疎通を図り、積極的に、英語を使って話をすることができました。また、英語でのプレゼンテーションでは、いかに相手に伝わるように、発表するのかを工夫しました。この力は、実際に外国に行き、英語で会話をしないと、つかない力だと思います。

これからも外国の方と話す機会を大事にしたり、今回知り合えたホストファミリーと連絡を取り続けたり、さらにコミュニケーション能力を磨いていきたいです。

感想

今回の留学で、日本語が伝わらない暮らしという経験をとおして、言葉がうまく伝わらなくても、相手と意思疎通をすることはできるのだと知りました。私はこれまで完璧な英語を話さないと、相手と意思疎通をすることは、出来ないと考えていました。しかし、相手と話すために必要なのは、難しい単語や文法ではなく、話したいという気持ちと、恥ずかしがらずに、まずは言葉にしてみる勇気だと気づきました。これからも、この気づきを大切にして、この気持ちを忘れずに、日々の英語の練習や、英語を使える機会を大切にしていきたいです。そして、今よりも一段と成長した姿で、また、アイオワの地に帰りたいです。

また、今回学んだ、異なる言語や文化や価値観の違いを乗り越えて、分かりあえた心や協同学習の経験を今後の生活にいかし、私の夢である海外での社会貢献ができるグローバル人材になれるように、努力したいと考えます。

私には目標があります。グローバル社会で活躍できる人材になることです。今回の留学で私は非常に大きなものを得ました。そして自分のこの夢を叶えたいという思いがもっと強くなりました。

アメリカは私の想像を遥かに超え、壮大な「異文化尊重」「多文化社会」でした。肌の色や言葉が異なり、生活様式や考え方が違う様々な人々が共存する、日本とは全く違う世界でした。出会う人と陽気に笑顔でハグしたり、多くの種類が物やサービスがあり、多様な価値観の中で生活できるよう工夫されている「異文化尊重」のすばらしさを実感しました。

この滞在を通して一番感じたのは、人々の温かさです。言葉もままならない私を一生懸命に理解しようと努力してくれる、アメリカの文化をわかりやすい言葉を選んで紹介してくれる、日本の物に興味を示し私の話を聞きたくさん質問してくれる、日本語を教えてと気さくに話しかけてくれるなど、多くの素晴らしい出会いがありました。

土曜にファーマーズマーケットに連れていってもらったのですが、その賑わいに大きな衝撃を受けました。特産品のとうもろこしやその加工品、アイオワならではのユニークなグッズなどが多く売られ、地元の産業を盛り上げようという人々の熱意が強く伝わってきました。日本にも道の駅などがありますが、このマーケットでは違う次元の活気を感じました。山梨も人々が楽しめるイベントなどをもっと積極的に行うことで、地域に笑顔が溢れ農業の活性化にも繋がるのではないかと思います。

ホストファミリーには言葉では表すことができないくらい本当にお世話になりました。最新鋭の映画館と一緒に映画を観たり、近所で乗馬を体験したり、ナイトパーティーを開いて他の仲間やホストファミリーとの仲をより深める機会を作ってくれたり、多くの学びと思い出溢れる滞在になりました。出発前のメールのやりとりから帰国直前まで本当に私の事を色々考え、そして心から別れを惜しんでくれました。私もまた絶対に会うと約束をしました。ホストファミリーは文字通り私の第2の家族です。

出発前の事前学習は山梨を知るという意味でとても良い学習でした。私は故郷の地場産業という観点で特に花火について調べ、アイオワで多くの人に知ってもらおうとプレゼンテーションを行いました。他の仲間の発表も今まで自分が気付かなかった故郷の一面を改めて意識できる興味深いものでした。またプログラム通じて私と同じような目標を持つ仲間に出会えたことは別の意味でとても大きな収穫です。

以前家族での海外旅行で殆ど現地の人との会話を楽しめなかった体験から、今度こそ積極的にコミュニケーションをとる意気込みでの参加した今回のプログラム。アイオワではみんなフレンドリーで、私も心の壁は乗り越えることができましたと思います。が、少し話が込み入ると、うまく伝えたいと言いはり難しいです。ある程度覚悟はしていましたが、やはり言葉の壁は大きいです。言葉はコミュニケーションの手段。もっと英語学習を頑張ろうと思います。

私たち高校生が現地の方と交流を深めることで山梨とアイオワの架け橋になれた喜びを実感しました。今までは高校生の私ができることなどないのではと思っていましたが、こんな私でも故郷に貢献できたことを誇らしく思います。今後も積極的に地域のことを考え、少しでも山梨にプラスになるような活動をしていきたいです。

最後に、山梨県庁の方々、東武トップツアーズの方、アイオワの方々、家族、そしてともにプログラムに参加した全ての仲間感謝で胸がいっぱいです。本当にありがとうございました。これからも私は夢に向かって前進していきます。



今年の夏、生まれて初めて行ったアメリカの旅は私にとって大きな経験とそして糧となった。英語力が格段に変わったということはないと思うが、大きく変わったこともある。それは意識だ。外国の人は自分の主張をはっきりいい、日本人は言わないとよく聞かすが、私自身もあまり主張できない方だ。英語だとなおさらだった。一説によると言葉の影響による第一印象は 7%で左右されると言われている。ちなみに視覚によるものは 55%、聴覚は 38%と高い。そのことを知らなくても話すことに物怖じしてしまいそうである。しかし、話をしていくうちに伝えようとすれば相手に伝わるのがよく分かった。すべて言いたいことがそのままのニュアンスで伝えられたとは決して思わないが、伝わるのだ。そもそも、日本語であっても全てを伝えるのは困難なことだ。だから何より大切なのは言い出す勇気だと学んだ。そして、意志を思うように伝えるために日々勉強しているのだと思う。



他にも学んだことはたくさんある。言葉という観点でいうと、現在日本にも俗に言う流行りの言葉というものがあるが、英語にもスラングというものがある。文化庁の平成29年度の「国語に関する世論調査」によると約7割が「最近の言葉遣いは乱れている」との回答結果がでた。また年々新しい言葉を使う人も増えているようだ。加えて、本来ある言葉の正しい意味を誤認している人も多くなっている。私は、新しい言葉を使うことを悪いことだとは思わない。しかし、昔からあった言葉の本来の言葉の意味が知られていないことは問題であると思う。対して、外国でスラングは会話で使う分には気にしない人が多いとホストファミリーは教えてくれた。「言葉は変わっていくものだから、新しい言葉が生まれるのは当然のことだと思う。」とホストファミリーの Mr. Chuck は言っていた。ここに日本人とアメリカ人との違いがあると感じた。新しいものを積極的に取り入れていく姿勢は日本人が見習うべきだと思う。日本人は、新しいものを最初批判的に見る傾向がある。そうではなく、一回飲み込んだ上で判断するべきだと思うのだ。その意識が主張しやすい社会を作り、よりよい日本を作っていくのだと思う。学ぶ上で、勇気が何より大切だと知った、留学をした今だからわかる大きなことだと私は思う。

今回このような貴重な体験をさせていただきました。学校や県の先生方、ホストファミリーの Mr. Chuck、参加した生徒の皆さん、家族、ありがとうございました。

自分の英語、行動力と向き合った1週間

甲府南高校 2年 平木諒太郎

私は7月30日から1週間8月6日までアメリカのアイオワ州デモイン及びカリフォルニア州ロサンゼルスに滞在してきました。留学前はこれから始まる1週間はとても短いから1日1日を大切に濃い一週間にして自分のものにしようと気合を入れていました。帰ってきた後は後ほど書きますが英語で結構自分が思っていた通りにやりきれたので自信になりましたし、とても充実していたなと感じることができました。

さて、今回のプログラムの大きな目標である社会問題に対する関心ですが、アメリカでホストファミリーや学校の先生や生徒の考えに触れたことで関心が高まりました。事前学習会から調べていた富士山のゴミの問題についても私達からは出なかった考えを持っていた人も何人かいました。高齢者福祉施設の方々やホストファミリーと政治や日本の法律について話したときもアメリカと日本の政治形態により理解が深まりましたし、課題も見出すことができました。何より向こうの人の考えに直に触れられたことが大きな経験になりました。

英語はこの一週間で1番頑張りました。1番成長したことは話す大きさです。自信をもって話せるようになったことが何より嬉しかったです。また努力したのは使いたい表現をメモしておいてそれを無理して使うことです。これを沢山出来たことも使える単語が増えましたし良かったと思います。

問題を解決する力に変化があったかどうかは実感はありませんが、滞在中私は明らかに日本よりは仲間と話し合い協力し合ってプレゼンの準備をしたり、英語を使ったりしたので変化は少なからずあったのではないかと思います。

この体験はとても充実していたと感じます。先生方の後押しなどもあり、私たちが英語を使い、英語で考え、話し合うという機会を沢山与えていただきました。そのお陰でこのような気持ちで自信をもって帰ってこられたのだと思います。

事前学習会では3回という少ない回数でしたが、ジェニファー先生のアイスブレイクやアイオワ州についての学習はとても興味深いものでしたし、プレゼン準備は初めて会う仲間たちとやるのは少し大変なこともありましたがとても頼りがいのある人達とやり遂げることが出来て良かったと感じています。

滞在中のアイオワ州でのプログラムは他の年のものを知らないので比較が出来ませんが先程述べたように英語を使う機会を増やしてくれるものばかりでとても役に立ちました。そしてその中で仲間との絆も深まっていてとても楽しかったです。



ホームステイはとても短かったですが、自分なりに最大限英語を使ったので良かったです。ホストファミリーも短い時間の中で私たちを沢山新しいものに触れさせてくれました。とても感謝しています。ホストファミリーと過ごした時間は絶対に忘れないと思います。

最高の仲間とのアイオワ留学

甲府東高校 2年 有泉咲陽

私は、この留学を通して大きく二つの変化がありました。一つ目は私自身の成長です。私はこの留学前、自分から進んで行動できない行動力に欠けた一人の高校生でした。私のこの留学プログラムへの参加が決まり、第一回事前学習会に出席すると、知らない他校の高校生とグループワークを行う環境がありました。また、学習会中に参加生徒ほぼ全員と交流もしました。行動力のなかった私にとっては大変な部分もあったけどグループの人と初対面にしてよい友好関係を築くことができました。この経験を通して自分は行動できるという身についた自信が、私に積極性を持って行動することの大切さを教えてくれました。計三回の事前学習会は有意義で、私を成長させてくれました。そんな成長途中の私を飛躍させたのは、初めてのホームステイです。ホストファミリーは私にたくさん話しかけてくれました。私も自分の行動力に自信を持ち始めていたので積極的に話しましたが、言語の違う相手の言っていることを理解するのは想像以上に大変でした。何回も聞き返したり話が续かなくなることもありました。だから、相手にわかりやすくジェスチャーをしたり表情を見て理解したりしました。次第にホストファミリーと会話をするのが楽しくなり、気が付けば自分から話題を出して会話していました。留学前の自分より確実に行動力が上がり、かつ英語力、コミュニケーション力の向上も実感できました。

二つ目は山梨の社会問題に対する視点の変化です。山梨の主な問題は人口減少であり、アイオワの農村地帯と共通しています。しかしデモインでは、人口増加が起きているので、私はアイオワで両方の視点とデモインから人口を増加させるヒントを得ようと考えました。アイオワの農村地帯には、畑以外本当に何もありませんでした。デモインは、まず街並みがレトロで交通のアクセスが非常に良かったです。主にオフィスが多く、広大な博物館や野球場などの公共施設が充実していました。私はデモインから学び、今後の山梨の人口増加のために交通の整備と大きな公共施設の設置が若者を山梨に引き付けると思います。

この留学を通して、アイオワの人々と同様に山梨の高校生とも仲良くなれました。本当にうれしく幸せです。今回の出会いに感謝し、関係を大切にしてアイオワと山梨の姉妹都市関係が今後も続くことを願っています。そして今、前の私のように同じ思いをしている人がいたら、ぜひ留学を勧めたいと思います。



アイオワ留学を終えて

甲府東高校 2年 丸山美菜子

私は今回のプログラムを通して、とても多くのことを体感することが出来ました。十時間という長い旅を終えたり着いたアイオワ州という場所は、私の知っている世界と何もかもが違いました。大きな道路、果てしなく広がる畑、そしてとても温かく迎えてくださったアイオワ州の人々がとても印象に残っています。

私は今まで海外へ行ったことがなかったため、ホームステイがとても不安でした。今まで日本では通じてきた発音が、アメリカでは通じなかったり、自分の伝えたいことを上手く説明出来ず苦労したりしました。しかし、諦めずに積極的にコミュニケーションを取っていくうちに、どんどん会話がスムーズになっていくことを感じ、来てよかった、と心から思いました。

また、今回のプログラムでは山梨県の社会問題を世界的な視点から考える、という目的もありました。事前学習会では、農業や行事などのグループに分かれ、アイオワと山梨の共通点や相違点などをそれぞれテーマ別に調べました。それにより、アイオワ州を社会的な面から学習することが出来ました。私はこの八日間で特に、人口流出対策の違いに気づきました。六日目にホストファミリーに連れられ、アイオワ州の科学館を訪れました。そこでは、多くの人々に興味を持ってもらうために、アイオワ州の農業畑をまわる、バスツアーを催したり、アイオワ州に生息する本物の生物達が展示されたりしていました。私はこのように地域について知ってもらうための行事を盛んに行うことによって地域愛が生まれるのではないかと思います。山梨県ではあまり、県民としての地域の知識を知らない人が多いと思います。山梨県もアイオワ州のように地域の自然や農業について知ってもらうための行事を行う必要があると思いました。

初めての異国の地で、大変なことが沢山ありましたが、温かいアイオワ州の人々や共に八日間過ごした他校の仲間に支えられ、本当に素晴らしい経験をする事が出来たと心から思います。グローバル化が進む現代社会で、海外へ行き、日本の素晴らしさを多くの人へ広めていくことがこれから生きる私達に求められるものだととても感じました。私自身、日本についてさらに知識を深め、日本の文化を多くの人に知ってもらえるようにがんばりたいと思います。このプログラムで学んだことを生かし、これからの山梨県の社会問題にも目を向けて行きたいと思います。



国境を越えて

市川高校 2年 金丸彩乃

私は今まで海外に行くことを目標にして英語という語学に向き合ってきた。小学校の頃通い始めた英会話塾をきっかけに、私は外国人という国境を越えた人々とのコミュニケーションに興味を持った。だからこのグローバル人材育成プログラムに参加することができ、アメリカという新たな地に足を踏み入れることができ、自分の中に新しい感情が生まれた。

私の英語力はまだまだ未熟だ。そう思っていた私はホームステイをすることに少し不安を抱いていた。自分の英会話力で本当に会話ができるのか。もし話せなかったら…などと初めての海外に戸惑っていた。そんな時、ホストファミリーからメールの返信が来た。私のホストファミリーは父、母、そして歳が7つ離れた姉(Claire)の3人だった。とても優しくそうな家族で、フレンドリーなそのメールにとっても心をリラックスさせてもらった。その時、今の自分に出来る最大限を発揮しようと決心した。



アイオワに行くと空港では「Welcome Ayano!」と書かれた紙を持った Claire が快く迎えてくれた。食事中や外出中、家でのフリータイムなどコミュニケーションをとる時間がたくさんあった。私は日本から折り紙やけん玉、お土産としてたくさんの日本のお菓子やインスタント味噌汁などを持っていき、写真などを使って日本や、日本での生活を紹介した。ホストファミリーは決して正しい英語でなくても理解しようとしてくれたし、日本に興味を持ち、楽しんでくれたので、私としてもたくさん話すことができたし、お互いの文化の違いを実感できた。他にもみんなでレストランやプールに行ったり、ファーマーズマーケット、ムービーパーティー、balloon festival にも連れていってもらった。機関車を見に行ったりお土産を買ったりなど 5 日間という、長くて短いような時間を過ごした。

この 5 日間で実感したのは、伝えようとする心の大切さだ。私は英会話力、文法力がないと英語は話せないと思っていた。そんなこと当たり前だ。日本人であるからには知らない単語はあるし、全ての文法を間違えなく使いこなせることなど不可能に近い。でも、どんなに言葉が通じない異国の人でも、心を通わせ、熱心に伝えたいことを伝えようとする心を持てば、単語力など関係なく伝わるものだ。それは私が日に日に感じていったことだった。最初は分からないから話さないという逃げに走っていた。でも、少しずつ自分の中にある単語を並べていき、身振り手振りでコミュニケーションをとっているうちに、心を通わせて笑顔で話せている自分に気づいた。

国境を超えた土地でコミュニケーションをとる努力をするからこそ、自然と英語そのものに触れ合うことができ、英語に向き合うことができたのだと思った。

最初は怯えていたけど、今回のプログラムではとても良い経験ばかりで、夢のような 1 週間だった。私は今回の留学経験が出来たことに感謝し、次の目標に向かって努力を続けたい。そしてこの機会に仲良くなれたホストファミリーとは交流を続け、別れの時空港で涙を流してくれた彼らとの約束通りもう一度あの家で笑い合うのが私の次の目標となった。

留学を経て

市川高校 2年 齊藤亮介

私はこのプログラムに参加するにあたり、自分自身の英語力やコミュニケーション能力を向上させることと外国の文化や考えに触れ、見分を広めることを目標とした。

私はアメリカのアイオワ州での数日間の研修や現地の人々との交流をした。ホストファミリーとして私を受け入れて下さった Rooney Kozak 家の方々との交流ではアメリカのことはもちろん、ロシアやアイルランドなどのヨーロッパの文化も学ぶことが出来た。また、ボランティアや高齢者福祉施設の方々との会話ではアメリカの先住民族の歴史や伝承、アイオワ州に関する歴史を知ることが出来た。そして常に英語だけを使う環境に身を置くことで私自身の英語力の向上にも繋がった。



私がアメリカで学んだことの中で特に興味をそそられたことは2つある。

1つ目はアイオワ州は多くのことで1番最初であるという点だ。例えば、アイオワ州では他の州よりもいち早く奴隷の自由を認めた州でもある。それは、他の州から逃げてきた奴隷を匿い、取り戻そうとした商人に対しその所有権を否定したことから始まる奴隷解放への第一歩である。また、アメリカの州の中で日本の県と初めて姉妹協定を結んだのもアイオワ州である。これは1959年の洪水により、山梨県が大きな被害を受けた際にアイオワ州のある1人の男性が支援活動を始め、最終的にはアメリカ空軍も協力し山梨県に大量の食糧や豚が贈られたことをきっかけとしたものである。この様にアイオワ州には最初の出来事がいくつかある。私は今までアメリカで様々な物事が始まるのはワシントンDCやニューヨークなどの主要な大都市であると思っていたがそうではなかったということに私は驚いた。

2つ目はアメリカの食事、とりわけメインディッシュに関することである。私はホストファミリーの家で米とラーメンを食べた。日本ではどちらも主食、つまりメインディッシュとなるものである。しかし、アメリカ人にとって米はおかずでありラーメンはスープだった。アメリカ人にとっての主食は肉や魚なのだ。このことは私にとって大きな衝撃であった。特にラーメンをスープとしてごくごく飲むホストファミリーたちの姿は。

私はホームステイや研修の中で積極的に会話を行ったことにより他にも多くのことを知り、見聞を広めることが出来た。これは必然的に会話をしなければならぬ状況に身を置いたことが大きな要因である。なぜならアメリカでは自分が知りたいことや欲しいものを伝えたり、説明したりする為にコミュニケーションを取る必要があったからだ。私は今回の留学を通して当初の目的である自身のコミュニケーション能力の向上と海外のことに対する見識を広めることだけでなく自ら行動を起こす力も同時に会得することが出来た。

私はこの留学での経験を今後の生活に生かし、さらなる高みを目指したい。

アイオワと山梨

市川高校 2年 高野好右

事前学習会のときからアイオワについてたくさん
のことを調べた。すると出てくるのは農業が盛んで、人
口減少などの問題があるアメリカの中では田舎な町
ということばかりが書いてあった。そこから私は勝手
に山梨に似たような町と位置付けていた。

だか現地では全くそう思わなかった。

街全体にアートが並び、ファーマーズマーケットとい
う毎週土曜日に開かれるお祭で賑わい、街全体が活
気あふれていて何より住人たちがアイオワという街を



愛していたのが実感できた。山梨県はそのように農業にそれほど関心を持たず自分の町を誇りに思ってい
るかもしれないが愛していないという点を改善していくべきだと思った。

そのような経験から、実際に行ってみたりやってみないとわからないということを学ぶことができた。また
文化の違いについても学ぶことができた。アイオワでは個人の自由を尊重していてまた逆にミスをして
だれも守らないという文化だった。日本とは真逆の発想でどちらがいいというのはないがとても興味深か
った。またこのような文化の違いを見つけられたのは、ホームスティやホームパーティなどで現地の人と多く
関われたからだと思う。だからこの経験を生かして、チャンスがあれば他の国のホームスティなどにも積極
的に挑戦したいと思う。

また事前学習会では、アイオワ州のことを学ぶだけでなく、山梨の良いところを調べて、ホストファミリーた
ちの前でプレゼンテーションをするという機会があった。グループ別でジャンルを分けて調べて、私たちのグ
ループは山梨の自然環境についてプレゼンをすることになった。調べていく中で様々な発見があった。例え
ば、「いろはす」の採水地の1つに選ばれていたりするなど水を使用する企業が山梨の水を求めて、工場な
どを構えていたり、山梨は森林の割合が県の77%以上と現在のところ日本3位でありとても自然豊かであ
るということなど、知らないことだらけだった。自分は山梨に住んでいるにもかかわらずあまりよく知らない
んだということが実感できた。

このプログラムを通して自分を含めてたくさんの山梨県民が山梨を誇りに思っているアイオワ州の人た
ちのように、もっと自分たちの故郷を愛するべきだと思った。またこのようにアイオワの人たちと山梨県民の
細かな違いを見つけられたのはホームスティなどの経験ができたからこそなことだと思う。このプログラム
に関わってくださった方々に感謝してこの経験を自分の将来に生かしていきたいと強く思う。

このプログラムを通して

市川高校 2年 橋本祐人

(ア) 留学前と留学後のあなた自身のことについて

・留学前の私は自ら行動せず何かやりたいことがあってもデメリットに目を向け、やらない理由を作り「挑戦すること」を避けていた。しかしこのプログラムを通してその意識が変化したように感じる。以前と違い挑戦することで何を得るかに焦点を置き、発生するデメリットをどう解決するかを考えるようになった。これは普段とかけ離れて環境での生活で起こる全てが私にとって挑戦であり、そのことに真剣に向き合ったからこその変化だと考える。

(イ) 社会問題に対する関心の変化

・このプログラムを通して山梨やアイオワについてより詳しく知ることになりどちらもより好きになった。そしてより好きになったからこそ、社会問題についてどうにか私でも役に立つことはないかと考えるようになった。これが一番大きな変化だと思う。

(ウ) コミュニケーションの力に変化はあったか

・変化はあったと思う。私はもともと人見知りをしてしまう性格なのだが、事前学習の段階から初対面の人とプレゼンテーション作成に取り組み、アイオワでも現地学生やホストファミリーとコミュニケーションをとることによって自然と自信を持って初対面の人との会話できるようになったと感じる。

(エ) 問題を解決する力に変化はあったか

・私は何か問題が発生した時、一人で悩んでしまうことが多かった。しかしこの留学を通して少し変わったと感じる。プレゼンテーション作成で行き詰まった時に班員に相談したり、現地ではわからないと感じたら英語ですぐ質問をするなど、コミュニケーションを取ろうと意識することで、無意識に一人で悩むだけの時間が少なくなっていく。それにより問題解決までの時間は短縮されたと感じる。

(オ) 体験を通して感じたこと

・私は留学に行く前、自分の英語が通じるのか、自分が言いたいことが伝わるのか不安だった。しかし、アイオワの人々は私の不自然な英語も真剣に聞き、自然に話してくれた。そして、現地の人々が頑張って日本語を話してくれたのはすごく嬉しかった。このことから、私の感じていた不安はコミュニケーションをとる上においてほんの些細なことなんだと感じた。

(カ) 事前学習について

・事前学習では、他校の人たちとアイオワについての勉強や、空港での手続きの確認、プレゼンテーション資料の作成などを行った。特に資料作成は時間がない中、班員と協力して一から作らなければならなかったのが最初はどうなることかと思ったが、最後にはいいプレゼンテーションができたと感じている。初対面でいきなり作業に入ったが一つの共通な目的のためみんなすぐに協力し合えたと思う。

(キ) 留学中のプログラムについて

・留学中沢山の場所に行き説明を英語で聞いた。当たり前だが全て英語なのでとても難しかった。そのため1日の終わりは自分でも驚くほど疲れていた。プレゼンテーションのパーティーはホストファミリーと日本について話すいい機会現地の人々も興味深そうに聞いていたので、頑張って良かったと思った。

(ク) ホームステイについて

・私はこのプログラムに参加して本当に良かったと思っている。特に良かったと思っている点はホームステイだ。実際にホストファミリーと暮らすことで日常的な文化の違いに触れることができ、英会話での生活はとても濃密なものになった。帰国後もホストファミリーとの交流は続いており、第二の故郷としてまた訪れたいと思っている。ただ海外旅行に行くだけでは絶対にできない経験ができた。



アイオワで学んだこと

都留高校 2年 早川優香

今までに私自身の周りに海外に触れるチャンスはあったが、チャンスを逃してしまっていた。高校生となり、自分から行動する必要があることにより今しかできないことは何なのかと考えたときに、このプログラムの紙を見て挑戦したいと思ったのが始まりだった。留学をしてみて、自分が住んでいる世界の広大さに圧倒した。アメリカは日本とは違いなんでも大きいように感じた。そして、人と人の距離がとても近く、フレンドリーなことに驚いた。日本には敬語を使う文化があり、目上の人だけでなく初めてあった人にも使うなど、相手を敬うことが普通である。しかし、英語には丁寧な表現はあるが敬語などが無いからこそ相手とも話しやすいと感じ、学年なども気にすることなくて仲良くなるのに時間はかからなかった。



アイオワでは、フードバンクを訪れた。私自身、山梨の社会課題として貧困問題を選んだ。山梨だけでなく、アイオワ州でも貧困問題は共通の社会課題である。日本にもフードバンクという支援方法はあるが、アイオワ州が最初にこの取り組みを始めたということもアイオワに来てみて初めて知った。今回、実際にフードバンクでボランティア活動をしてみて、普段から食べ物を何気なく食べることができる環境は当たり前ではないことや、残すことの重さを実感した。9人に1人の子どもは食事をとることができない、という言葉聞いて普段の食事に対する考え方をこれから先、自分自身も含めて見直していくことが必要なことだと思う。この問題は先進国や発展途上国に限ることではない。アイオワでの、困っている人をみんなで支えるという考え方に感動し考えさせられることや学ぶことが多かった。

また、アイオワでは、ホームステイをさせていただいた。私自身英語を話すことへの不安が大きくて周り比べてできていないなどと悩むことや、ホストファミリーと話すときにも、“Sorry”という単語を多く使っていた。そういった不安からこのプログラムに参加してよかったのかと考えていた。しかし、アイオワにきてみて、「リラックスして楽しんで。Sorry を言い過ぎないでいい。」など、ホストファミリーが優しく、私の英語を聞いてくれたりしてとても安心できたことを覚えている。ホストファミリーの方々はとても親切でアメリカの文化をたくさん教えてくれた。ホストファミリーと過ごしていく中で本当の家族のように感じることでとても楽しかった。最初は気にしていた自身の英語力も次第に気にならなくなり、英語を使うことの楽しさに気が付いた。

アイオワで最も楽しかったことにファーマーズマーケットがある。ファーマーズマーケットには、たくさんの食べ物の店が並び、多くの人でにぎわっていた。Sparrow とシャボン玉を作って遊んだりした。アメリカは夜の8時まで明るいのでたくさん遊ぶことができたが、あっという間に時間は過ぎてしまった。ファーマーズマーケットは毎週土曜日にあると聞いた。5日間しかアイオワにいたことができなくて、その日しか経験することができなかったが、また行きたいと思えるほど楽しく、いい思い出になった。

私はアイオワにきてみて母国語が日本語で、英語を勉強している最中だからこそ多くの人の助けをかり、日本を超えた世界の人も関わることができて、多くの優しさに気づくことができたのではないかなと思う。学校では、大学を目指すためのだけの勉強ととらえてしまっていて、英語もその一環の一つとして今まで学ん

できている部分が自分の中にあったのだと思う。今回のプログラムを通して、文法も大事だけど、完璧を求めて話すことよりも、わからなくても質問すること、単語だけでも使ってみることが大事だということに気がついた。私は今回のプログラムを通して今までの私自身に足りなかったことや多くの人との出会いを通して、多くの学びを得ることができた。この多くの得られたものは私一人では到底できることではなかったと思う。このプログラムを企画してくれた教育委員会の先生方や、引率して下さった吉岡先生、米山先生、高橋さん、アイオワにいるホストファミリーやキャシーさん、その他にも、指導して下さった学校の先生方、父、母のおかげで安全に多くのことを学ぶことができている。私は今までにかかわって下さったすべての人に感謝して、今後の学びにつなげられるような人になることができるようになりたいと考える。このプログラムに参加することによって得られたものは生涯の財産に等しく感じた。教科書で学ぶだけではなく、現地に行ってみてしかわからないことも多い。だからこそ、一つの勉強に固執するだけでなく、今しかできないことを早い段階から経験することができて良かったと心の底から思える。私の学校でこのプログラムに参加したのは、私一人だったが挑戦してみてよかったと思う。私はこのプログラムに参加することができてよかったと思う。

報告書

吉田高校 1年 小野李里花

●留学前と留学後の自分自身の変化について

アイオワを訪れたたくさんの外国人と関わったことで、日本にはない外国の良さと、今まで気づけなかった日本の良さを知ることが出来ました。また、日本にいた時は空気を読んで時には自分の意見を心に留め周りに合わせていましたが、アメリカの学生が自分の意見をはっきりと相手に伝えているところを見て協調主義の日本の中でも”個性”を出していくことが重要だと思いました。



●社会課題に対する関心について

近年、私の住んでいる富士五湖地域には外国人観光客がたくさんいます。そこで、私は社会課題を富士山以外の魅力に気づいてもらえていないことだと考えました。アイオワでほうとうについてのプレゼンテーションをし、それが終わった後にホストファミリーがほうとうを食べてみたいと何度も言ってくれて、興味を持ってくれてとても嬉しかったです。

●コミュニケーションの力の変化について

ホームステイや高齢者福祉施設での文化交流、現地の学生との交流によって英語を沢山話すことで少しずつコミュニケーションの向上を図れたと思います。また、完璧な英語を話せなくても一緒に笑い、考え、相手を理解しようとする気持ちが人と人とを結びつけるんだと実感しました。この経験を生かして日本を訪れる外国人観光客へのボランティアに積極的に参加したいです。

●体験を通して感じたことについて

アメリカと日本のライフスタイルが全く異なっていることに気づきました。

日本では夜7時くらいになると外が真っ暗になり、暗くなってからはあまり外に出なくなります。アメリカは夜の8時でも明るく夜に出かけることが多かった。また、外食の時は家族や友人など大勢が集まり家族がとても仲良しだなと感じました。

●事前学習会について

3回の事前学習会の中のアイスブレイクなどの交流を通して、一緒に行くメンバーとも親しくなれました。また、実際に行く前にアイオワの建物や農業について知ることができてとてもよかったと思います。

●ホームステイについて

ホストファミリーは本物の家族のように接してくれて私たちにも理解できるように話してくれました。なので、私もわからない言葉があった時はどんな意味なのかを聞くようにし、簡単な文法でもコミュニケーションが取れてとても嬉しかったです。

バーベキューのお店や、ヌードルのお店、ボーリング、ゲームセンターなど色々なところに連れて行ってもらいました。中でも、私が買い物をすることが好きというようにスーパーマーケットに連れて行ってくれたり、お土産を買う時には美味しいお菓子を教えてくれたりと私たちに気遣い、優しく接してくれたファミリーにとっても感謝しています。

また、ホームステイ中にホストファミリーが私たちにくれた名前入りのトートバッグやトレーナーは私の宝物です。

アイオワ州。名前は聞いたことはあったが、正直どのへんに位置するのか、どんなところなのか全然知らなかった。そんな私が、アイオワ州のことが大好きになった1週間だった。

自分の中で1番大きな変化は、英語をもっと好きになったことだ。もともと英語が好きだったが、もっと頑張っ、もっと英語が使って話せる人になりたいと思えた。そう思えたのは、ホストファミリーとルームメイトのおかげだ。私は、人と話すことは好きなのに、自分からホストファミリーに話す、ということができなかった。そんな時、ルームメイトが「ホストファミリーとお話しに行こうよ」と声をかけてくれて、気づいたら2時間くらいホストファミリーと話していたなんてことが何度もあった。その時間はとっても楽しいものだった。



ホストファミリーみたいにペラペラしゃべれるわけではないが、知っている単語はとにかく使ってみよう意識して、それが通じた時の嬉しさは大きかった。

また、ホストファミリー宅を離れてのプログラムでは、楽しそうなものばかりだったが、高齢者福祉施設訪問だけ少し不安だった。高齢の方の英語が聞き取れなかったら、気難しい人がいたら、そんなことを考えてしまった。でもそれは無駄なことだった。私のテーブルが一緒だったアーリンさんはとてもやさしくて、私に質問してくれたり、折り鶴を喜んでくれたり、クラッカーを取ってくれたり、とにかくいいひとだった。貴重な時間を過ごすことができた。

今回旅行ではなく留学、ただ遊びに行っているのではない、ということをお頭に置いて、観光したり、プログラムに参加したりすることを心掛けた。そうすることで、デモインの街中では、小さなことにも気づかいの施された場所がたくさんあることに気づくことができた。一見普通の押し扉に見えるドアに車いすの方用にドアの開閉ボタンがついていたり、歩道と車道の段差が小さかったり、トイレには必ずペーパーかドライバーがあったり、ハイウェイの周りの木が多かったり、ほかにもたくさん日本にもあったらいいのにな、というものがあつた。また、よく考えると日本にもあるが、アメリカに行ったことで気づいたこと、反対に日本にしかないその存在のありがたみも発見することができた。

そして、何よりも日本人が見習うべきだと思ったのは、「こころのひろさ」だ。“心の広さは国土の広さに比例するのでは”、と思ってしまうほどにみんながみんな穏やかな人だった。日本人にはおもてなしの心はあるというが、それが最近マニュアル化しているように思えるのは、私だけだろうか。アイオワのひとはいつもおおらかな心で何事も受け止めているように見えた。日本人がいつもカツカツしている、と言われてしまうのも無理はないと思ってしまう。だから私は、アイオワの人をお手本に広いおおらかな心を持つことを心掛けてたくさんの人と接していきたい。